

建交労大阪府本部 機関紙



発行元 府本部
電話 06-4800-7115

建交労近畿地方協議会が学習会開催

建交労近畿地協は、6月1日(土)午後13時から国労大阪会館1階ホールにおいて学習会を開催しました。学習会は、津村副議長の司会進行で始まり、冒頭に近畿地協を代表して川口議長から挨拶があ



りました。川口議長は、「産業別統一闘争は、単産組織によって、たたかいが異なる。今回は、JMITU・三木執行委員長に金属のたたかいについて大いに学び、そして、建交労のたたかいにどう

活かせるのかを学習しよう」と述べました。

要求闘争を学ぼう!

第1部の学習は、JMITU・三木陵一執行委員長をお招きして「JMITUの産業別統一闘争について」をテーマに約70分間行いました。三木

執行委員長は、4つの柱にした闘いについて説明。
 ① JMITUは春闘をどうたたかっているか。② 秋闘・JMITU独自の統一闘争。③ 倒産・リストラ・組織攻撃とのたたかい。④ 組織の強化・拡大、職場活動、職場闘争の強化。」を詳しく説明され、産業別闘争の違いについて学ぶことが出来ました。
 第2部は、大阪府本部・前村執行委員長をお招きして「建交労共済について」をテーマに約40分間、学習しました。前村委員長は「労働組合が共済を取り組む意義、労働組合共済の根拠となる法律、民間保険と共済との違い、何故、民間保険が高いのか？」を説明したうえで、能登半島地震における給付状況や火災保険、組織共済、個人共済、ペット保険について説明。また、建交労共済キャンペーンにつ

いても説明。最後に2025年度4月に行われる制度改定内容について説明されました。建交労共済は組合員と家族が万が一の病気や怪我で就労不能となったときの生活の支えになると同時に組織財政に貢献できる組織強化に繋がります。今一度、組合員の皆さんへ各種共済への加入を呼びかけましょう。建交労近畿地協学習会の参加者は、全体で32名。大阪府から14名が参加しました。

大阪府本部第25回定期大会

2024年9月8日(日)10時開会

国労大阪会館大会議室

大阪労連民間部会の学習交流会

大阪労連民間部会学習交流会は、6月21日・22日（金・土）の一泊2日で神戸フルーツフラワーパークにおいて、午後2時から開催されました。全体の参加者は25名、建交労大阪から阪口副委員長と荻田書記長が参加しました。学習交流会は、化学一般の海老原書記長の司会進行で始まり、関西勤労協・榎野理啓副会長をお招きして、「何のためにたたかうのか？あなただの夢はなんですか」をテーマに約1時間学習しました。榎野先生は、冒頭に「誰とたたかうのか？それは、資本家とのたたかいである。」と述べたうえで、「春闘は1955年に始まり、企業別組合としての弱点をかかえ

つつ、要求実現のために毎年春の時期に、さまざまな産業の労働組合が足並み揃えてたたかう、日本特有の労働組合のたたかい方であること。それは、賃上げ闘争として始まり、インフレや公害、住宅難、社会保障などの要求とむすびついて、制度要求や国民的課題を掲げる「国民春闘」へと発展した。」と説明。そして、「そもそも労働組合とは何か」を柱に「労働組合・



大阪労連民間部会・福岡部会長

その過去・現在・未来」について詳しく学びました。最後に「いま私たちに求められること。それは、みんなの生活向上、貧困と格差の解消、賃金上がる国への転換、社会保障の充実、気候危機

の打開、ジェンダー平等の推進、憲法改悪阻止、大軍拡路線反対、全国一律最低賃金制度の実現」をめざし、さらに重要なことは、「生産手段の社会化、社会的ルールの確立、アメリカいいなり、



関西勤労協・榎野理啓副会長

財界中心の異常な政治からの脱却、労働組合の復権。」であると説明してくれました。

感想として「資本主義社会では国民・労働者本位の社会にならないこと。需要と供給のバランスが変われば、経費をはるかに上回る異常な価格高騰になるのが資本主義社会であること。労働組合の任務と役割が重要である。」と感じました。

大阪府本部第26回定期大会
9月8日(日)午前10時開会
国労大阪会館・大会議室

原水爆禁止平和行進(建交労大阪が結集

大阪府本部は、6月30日(日)〜7月7日(日)かけて行われた原水爆禁止平和行進・幹線コースの全日程に参加しました。6月30日(日)は、柏原市役所前・淀川河川敷で奈良県から引継ぎの決起集会があり、大阪府本部・荻田書記長が参加しました。決起集会では、原水爆禁止常任副理事の菅さんが挨拶。菅常任副理事は、「原爆投下から79年、核廃絶と平



和を願うこの取り組みを大阪でも繋いでいこう。」と呼びかけました。そして、東京〜広島まで通し行進者である、大村美恵さんは、「愛知県碧南市生まれで夫が被爆2世である。夫の父は、戦争中に長崎県にいて、長崎市内に爆弾が落ちて町が悲惨な状態になっていいるから救援に行くよう軍から言われて被災地へ行った。二度と同じようなことが起こらないことを願っている。」と語ってくれました。

決起集会後は、柏原市役所〜八尾市役所〜若江岩田市役所まで「核兵器廃絶・日本は1日も早く核兵器廃絶の署名・批准せよ！」アナウンスで宣伝しながら行進しました。2日目は、此花支部



組合員の方が参加。3日目は、大阪府本部・荻田書記長が参加。4日目は、大阪府本部・阪口副委員長が参加。5日目は、関西支部1名、関西合同支部1名、大阪合同支部1名の組合員の方が参加。6日目は、関西支部1名の組合員の方が参加。7

日目は、大阪府本部・橋本執行委員と関西支部3名の組合員が参加。8日目は、大阪府本部・佐藤執行委員が参加しました。今年の平和行進は、雨が少なく炎天下での行進であった為、熱中症に

ならない世界にしたいと感じました。なお、大阪の原水爆禁止平和行進の宣伝力ー運転手は、関西支部・福山組合員、関西合同支部・穀谷組合員、荻田書記長の3名で運行しました。

なる方もいましたが、継続して運動を続け核兵器

大阪労連主催の組織集會に参加する

大阪労連が主催する組織集會は、7月20日(土)午後13時から国労大阪會館において行われました。組織集會は、大阪労連・鴻村書記次長の司会進行で始まり、冒頭に、大阪労連・菅議長から主催者を代表してあいさつ。第1部は、全労連・



事務局次長をお招きして学習会を行いました。学習会は、「レイバーノーツ大会、米国の労働運動に学ぶ」をテーマに約1時間学びました。レイバーノーツ大会では、何故、レイバーノーツに参加している労組、活動家と交流するのか？それは、米



国労働運動のうねりを作り出している人々から、その方法、教訓、組織化のメリットを学ぶためであり、全労連としてレイバーノーツ大会で交流したことをどう活かせるのかを説明していただきました。学習した感想としては、アメリカで労働組合を結成するには企業の半数以上の労働者が労働組合を結成することに賛成し、署名してくれないと認められないことに驚

きました。日本では1人でも労働組合に加入することが出来、結成することも可能です。第1のハードルを越えるためのエネルギーは大変だと思

化をいえるのだと思いました。

第2部は、各組織との交流を深めることを目的に行われ、4人から5人のグループに分かれて40分間話し合い、休憩後にグループを変えて40分間話し合いました。内容は、他の組織ではどのようにしてたか、どのよう

う。そして、組織化を実現した後にも、要求を実現するための交渉や組織拡大する活動などがあります。日本の労働組合より熱意や信念を持つ活動

**8月10日~18日まで
大阪府本部事務所閉局
8月19日から平常どおり**